

茶 チャノホソガについて



図1 成虫



図2 幼虫



図3 巻葉被害の様子



図4 フェロモントラップに誘殺された成虫

1 生態

チャノホソガは新梢部を加害する茶の重要害虫である。幼虫が葉を三角形に巻くためサンカクハマキとも呼ばれる。成虫は体長約4mm、体と前翅は光沢のある褐色で、前翅の中央に三角形で金色の大きな紋がある。葉に止まる時は翅をたたみ、頭部を高く上げて入字のような特殊な姿勢をとることが特徴である。産卵は主に新葉の裏面に長径0.5mm程度の水滴様の卵を1粒ずつ行う。ふ化幼虫は体長約0.5mmで、葉の組織内に潜行し加害するが、やがて葉縁に達し、葉の一部を裏側に折り曲げて、その内部を加害する。葉縁で成長した後はほかの新葉に移動し、一枚の葉を三角形に巻いて、その中で加害しながら巻葉内に黒色の糞をする。この虫糞が堆積し、製茶時の品質を大きく低下させる。老熟幼虫になると巻葉から脱出して古葉の葉裏で繭を作り蛹化する。

本虫は15℃で卵期間10日程度、幼虫期間27日程度を経て蛹になる。

2 発生消長

本県では4月上旬から越冬世代成虫の発生が確認され、年間の成虫発生回数は5回と考えられ、成虫の発生最盛期は6月中旬、7月中旬、8月中旬、9月下旬に認められる。新茶の萌芽期～開葉期が本虫の発生最盛期と合致すると巻葉被害が多くなるため、発生に注意する。

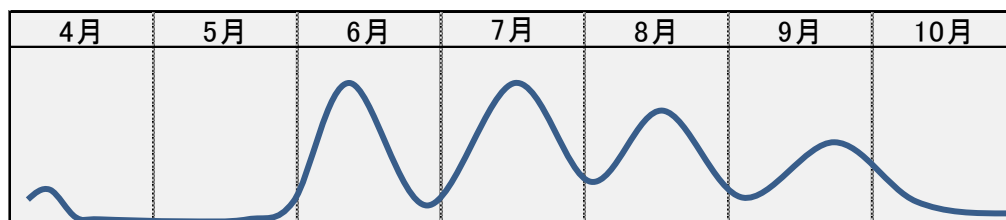


図5 チャノホソガの発生消長

3 防除対策

(1) 栽培管理

三角葉巻形成までは実害はないため、経営上問題なければ早摘みを実施する。

(2) 適期防除

三角葉巻が形成されると薬剤がかかりにくくなるため、成虫発生最盛期の約10日後の防除を徹底する。成虫の発生消長はフェロモントラップによる調査で把握でき、岐阜県病害虫防除所ではフェロモントラップの誘殺状況調査を行っているため、防除の参考とされたい。

(<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/> 岐阜県病害虫防除所)

新葉を対象に薬剤散布するため、摘採前日数を考慮して薬剤を選択する。また、薬剤抵抗性を発達させないために同一系統薬剤の連用は避ける。